

英語直示動詞 bring における到達点

岡 良和

〈キーワード〉

① bring ②直示動詞 ③到達点

〈論文要旨〉

一般的に、英語直示動詞 bring は come の使役動詞と捉えられている。本論文では、直示動詞における重要な要素である「話し手や聞き手が存在する場所」の観点から、come とも比較しながら bring における「到達点」を扱う。次いで、中学校の英語教科書における bring や come を含む英文を、「到達点」を中心とした意味的拡張の観点から検討する。

The Notion of “Goal” in the Deictic Verb “Bring”

Yoshikazu OKA

〈Keywords〉

① bring ② deictic verb ③ goal

〈Abstract〉

This paper will deal with the “goal” implied in the deictic verb “bring,” which is the causal form of the deictic verb “come,” since it is an important factor where the speaker or the hearer is located in analyzing deictic verbs. In addition, some English textbooks for junior high school students will be also studied to suggest the importance of introducing a semantic point of view into English teaching.

英語直示動詞 bring における到達点

岡 良和

はじめに

本論では英語動詞 bring の意味を come との比較において、主語の指示物や目的語の指示物の「到達点」の観点から分析することを目的とする。その結果、bring は come の使役形であることが明らかになる。さらに、中学校の英語教科書における come や bring の扱われ方を検討する。

1. Bring の概念

英語動詞 bring について、英和辞典には以下 (1) — (2) の記載がある。

- (1) ▶ *bring* は話し手の所に運んだり導いたりすること。逆は take.

— 『ランダムハウス英和大辞典』(s.v. bring) (下線筆者)

- (2) bring: 物や人を自分 (話し手) のいる所へ持って [連れて] 来る動作を表す。

take: ふう行き先を示して、自分 (話し手) のいる所から離れた所へ持って [連れて] 行くという動作を表す。

ただし、話している相手の所へ持って行く場合は take ではなく bring を使います。

これは come と go の関係と同じです。

I'll *bring* it to you tomorrow.

(あしたそれを持って行きます。)

— 『ニューホライズン英和・和英辞典』(s.v. bring) (下線筆者)

上記 (1) には到達点として話し手のいる所しか記載されていないが、上記 (2) には到達点として話し手のいる所のほかに聞き手のいる所も記載されている。

また、英英辞典には英語動詞 bring について以下 (3) の記載がある。

- (3) ▶ COME WITH SB/STH

— OALD (s.v. bring)

さらに語源辞典では英語動詞 bring について以下 (4) の記載がある。

- (4) bring v. ((OE)) 持って来る, 連れて来る, もたらす. …原義は COME の使役の意味 (to cause to come along with oneself) で TAKE の対語。

— 寺澤 (編) (1999: 162)

上記 (1) — (4) の記載から、bring の概念については以下 (5) — (6) のように考えられていることがわかる。

- (5) 英語動詞 bring は come の使役形である。
- (6) 英語動詞 bring は take の対義語である。

本論文では、到達点の観点から上記 (5) の妥当性について分析を加え、上記 (6) の妥当性については稿を改めて分析する。

2. Bring における主語の指示物の到達点

英語動詞 bring の概念を「動作主が対象物を同伴しながら、話し手もしくは聞き手が存在する場所を到達点として移動する」として以下の分析を進める。まず、bring における主語の指示物の到達点について come と対比しながら、以下 (1a-b) — (7a-b) を検討する。

- (1) a. She will come to my office tomorrow.
- b. She will bring some flowers to my office tomorrow.
- (2) a. She will come to your office tomorrow.
- b. She will bring some flowers to your office tomorrow.
- (3) a. I will come to your office tomorrow.
- b. I will bring some flowers to your office tomorrow.
- (4) a. You will come to my office tomorrow.
- b. You will bring some flowers to my office tomorrow.
- (5) a. *I will come to her office tomorrow.
- b. *I will bring some flowers to her office tomorrow.
- (6) a. *You will come to her office tomorrow.
- b. *You will bring some flowers to her office tomorrow.
- (7) a. *She will come to his office tomorrow.
- b. *She will bring some flowers to his office tomorrow.

上記 (1b) において、三人称主語 she の指示物の到達点は、この発話がなされた時 (utterance time) に話し手が存在する場所もしくは 'tomorrow' の指示する時 (reference time) に話し手が存在するであろう場所である。また上記 (2b) において三人称主語の指示物の到達点は、utterance time に聞き手が存在する場所もしくは reference time に聞き手が存在するであろう場所である。また、(3b) では、一人称主語の指示物 (話し手) の到達点は、utterance time に聞き手が存在する場所もしくは reference time に聞き手が存在するであろう場所であり、(4b) では二人称主語 you の指示物の到達点は、この utterance time に話し手が存在する場所もしくは reference time に話し手が存在するであろう場所である。これに対して、

(5b) (6b) (7b) では、主語の指示物の到達点が、話し手や聞き手が reference time に存在するであろう以外の場所である場合には非文となる。

以下 (8) のように、動詞 bring を含む文において、到達点が明示されていない場合もある。

(8) Can I bring something?

(何か食べ物 [飲み物] を持って来ましょうか)

—『ジーニアス英和大辞典』(s.v. bring) (下線筆者)

しかしながら、上記 (8) はホームパーティーに招待された時の回答として使われることが多い表現なので、到達点はパーティー開催時に聞き手が存在する場所となる。

以上見たように、bring は come と同様に直示動詞と呼ばれ、文の発話時もしくは文中の時間副詞 (句) が示す時や主語の指示物の到達時のいずれかに、動作主と被動作主 (bring の目的語の指示物) の到達点が、話し手が存在する場所もしくは聞き手が存在する場所、あるいは話し手と聞き手が存在する場所である必要がある。

次いで、come と bring に伴う話し手や聞き手が存在する場所について、utterance time と reference time の観点から検討する。以下 (9) で示されるように、この英文には、四通りの解釈の可能性がある。

(9) The train came into the station at three o'clock yesterday.

(= I SAY TO YOU NOW "The train came into the station at three o'clock yesterday.")

- a. 話し手は発話時に駅に存在している。
- b. 聞き手は発話時に駅に存在している。
- c. 話し手は昨日 3 時に駅に存在していた。
- d. 聞き手は昨日 3 時に駅に存在していた。

上記 (9a-d) は、以下 (10) についても該当する。

(10) The train brought many passengers into the station at three o'clock yesterday.

(= I SAY TO YOU NOW "The train brought many passengers into the station at three o'clock yesterday.")

上記 (9b) や (9d) のように、come の到達点が聞き手の存在する所である場合は日本語母語話者が誤りを犯しやすい。以下 (11b) がその事例である。

(11) 〈状況〉：母親が子どもに呼び掛ける

a. Mother: "Breakfast is ready!"

(「朝ごはんができたわよ!」)

b. Son : "I'm $\left\{ \begin{array}{l} \text{coming} \\ * \text{going} \end{array} \right\}$ right away!"
 (すぐ行くよ！)

Come と同様に bring についても以下 (12) の様な事例がある。

(12) I'll ~ [× take] it to you tomorrow.

(明日そちらへ持ってまいります)

— 『ジーニアス英和大辞典』 (s.v. bring) (下線筆者)

さらに、bring の日本語訳として、1. (2) では「持って行く」が、他方、2. (8) では「持って来る」が対応している。このような、日英語間の相違も、以下 (13) に記載されているような直示的中心 (deictic center) 概念を理解することで、誤解を防ぐことができる。

(13) Come と bring における到達点は、話し手もしくは聞き手、あるいは話し手と聞き手が存在する所である。¹

上記 (11b) や (12) に関する問題は、utterance time に、話し手が聞き手の存在している場所にはいないことに起因する。以下 (14) の小説からの事例では、come と bring が現れている。

(14) 〈状況〉：召使が男性の寝室に入って来る。

Then, the next morning, Ruth came to see me. 'John,' she said, 'are you well enough to see your wife? I was afraid to bring her before, while you were so ill.'

(それから、翌朝、ルースが私に会いに来た。「ジョン」と彼女は言った。「あなたの妻に会うことができるくらいよくなりましたか。以前あなたの具合がとても悪い間は彼女を連れて来ることはできませんでした。）」

— Blackmore (2000: 72) (下線・和訳筆者)

上記 (14) においては、utterance time に話し手が聞き手の存在している場所にいるために、日本語訳も「連れて行く」ではなく「連れて来る」となる。

次いで、以下 (15) において、映画の中で bring が用いられる事例を取り上げる。

(15) 〈状況〉：注文された食べ物を届けに行く。

[部屋の戸をノックして]

It's your food... I brought up your sandwiches.

(お食事です。サンドイッチをお持ちし[持って来]ました)

— *Getaway* (下線・和訳筆者)

上記 (15) においても、utterance time に、聞き手が存在する場所に話し手が被移動物であるサンドイッチを伴って到達しているために bring の日本語訳は「持って来る」となる。次いで、以下 (16) として同じく映画からの事例を扱う。

(16) 〈状況〉：囚人を列車で護送中の役人たちがいる客車に車掌が入って来る。

We'll bring out sourdough and hams when we get to Chester.

(チェスターに着きましたらサワードウとハムの食事をお持ちし[持って来]ます)

— *Appaloosa* (下線・和訳筆者)

上記 (16) においても、utterance time に話し手が聞き手の存在する場所にいるために、bring の日本語訳として「持って来る」が対応する。しかし、車掌が直接役人のいる所へ出向くのではなく、電話等で上記 (16) を伝達するという状況であれば、bring の日本語訳として「持って行く」が用いられる。

3. 中学校の英語教科書における bring の扱い

本セクションでは中学校の英語教科書である *New Horizon English Course* と *New Crown English Series* における英語動詞 bring の扱いを検討する。以下 (1) は *New Horizon English Course* における bring の初出事例である。

(1) Hiking with Ms. Green

Spring is the season for hiking. Come with us to Lake Heiwa. We can play volleyball there with Ms. Green. Meet at the school gate at 9:00 on Sunday, April 16. Bring your own lunch.

— *New Horizon English Course 2* (2008: 6) (下線筆者)

New Horizon English Course では、英語動詞 bring は二年生で初めて現れる。上記 (1) における到達点は、ハイキングの目的地である Lake Heiwa である。この到達点は発話時に話し手が存在している場所ではなく、また、come with us という表現から、話し手に聞き手が同伴されて到達点に移動することが明らかであるため、聞き手が到達点に到着した時に、あらかじめ話し手が存在している場所でもない。したがって上記 (1) の到達点は以下 (2) に示されている、話し手が焦点を置いている場所となる。

(2) In pure third-person discourse (i.e., in discourse in which the identity and location of the Sender and the Addressee plays no role), the narrator is free to choose a point of view, such that movement toward the place or person whose point of view is assumed can be expressed with the verb COME.

— Fillmore (1971: 377)

初出事例としては典型的な用例が示される方が望ましいが、上記 (1) ではそうはなっていない。また、焦点が到達点ではなく出発点に置かれている場合には、上記 (1) の come と bring は、それぞれ go と take になる。これらを含む英文の日本語訳も「平和湖へ私たちと一緒に行きましょう。」「昼食を持って行ってください」となり、中学生にとっては理解が困難である。

New Crown English Series においても bring の初出は二年生で、以下 (3) がその事例である。

(3) When you eat in Korea, don't bring the bowl up to your mouth.

— *New Crown English Series 2* (2008: 26) (下線筆者)

上記 (3) では、被移動物である「茶碗」の到達点は「聞き手の口」であるとされるが、茶碗の移動は聞き手の縄張りの内部にとどまるために bring の典型事例とはならない。この英文の日本語訳も「口に持って来る」と「口に持って行く」の両方が可能であるため、やはり中学生には理解が困難である。

New Crown English Series 3 では「彦一とんちばなし」が収録されており、この中に以下 (4) の事例がある。

(4) 〈状況〉：殿様が家来に命じる。

Bring Hikoichi here. Right now.

— *New Crown English Series 3* (2008: 32) (下線筆者)

上記 (4) については、話し手である殿様が発話時に存在している場所が、動作主である聞き手と被移動物である彦一の到達点であるために、典型的な bring の事例であるといえる。一方、以下 (5) では被移動物が customers and money であり、これらが招き猫の存在する場所を到達点として移動させられると考えられる。この到達点は、話し手が存在する場所でもなく聞き手が存在する場所でもない点で、上記 (2) で示された到達点の概念が拡張された事例と考えられる。

(5) This is a *maneki-neko*. It is a 'welcoming cat' we often see it in shops and restaurants. Some people believe that it brings in customers and money.

— *New Crown English Series 3* (2008: 43) (下線筆者)

これらの事例の後、巻末に以下 (6) のような bring の語彙的記載がある。

(6) bring 動 (人・動物) を (向こうからこちらへ) 連れてくる, 持ってくる.

bring in ~ (人に) ~をもたらす.

— *New Crown English Series 3* (2008: 67)

上記 (6) の前半は上記 (4) に関する記載である。上記 (4) では、「(人・動物)」は殿様の発話時に話し手である殿様が存在する場所にはいない彦一を指し、「彦一がいる場所から殿様がいる場所に家来が連れて来る」事象が表示されている。ただし、上記 (6) の「(向こうからこちら²へ) 連れてくる, 持ってくる」という記載は、話し手が存在する場所への移動のみで、聞き手が存在する場所への移動を除外してしまっている。

上記 (5) の bring in を説明する上記 (6) の後半部については、「(人に)」という記載は、話し手や聞き手ではなく「招き猫がいる店やレストランなどの経営者」を指すと考えられるために、上記 (5) は bring の到達点に関する典型的な事例ではない。典型的な事例は、以下 (7) のような、話し手が存在する場所への移動を伴う事例である。

(7) Please go out to the car and bring in my suitcase.

—『動詞を使いこなすための英和活用辞典』(s.v. bring in) (下線筆者)

上記 (7) では、聞き手が、話し手の存在している場所から離れる移動を行い、次いで、被移動物である my suitcase を話し手が存在している場所へ移動させる、という事象が表示されている。

おわりに

本論文では、まず、直示動詞の bring が come の使役動詞であることを確認した。そして直示動詞における重要な要素である、話し手や聞き手が存在する場所に関して、come と比較しながら bring における「到達点」を分析した。

さらに、その分析結果を中学校の英語教科書における come や bring の扱い方に適用した。その結果、それらの教科書では、必ずしも、中心的な用法から拡張的な用法へと順序だった展開がなされていないことを指摘した。

このことは、場面や機能を中心としたシラバスが優先されると、中心義から拡張義への系統だった導入順序が疎かになることを示唆している。英単語や英文の意味を、日本語訳で暗記するのではなく、論理的に理解する英語学習の必要性も、この機会に指摘しておきたい。

(註)

1 ただし、話し手もしくは聞き手が、主語の指示物の到達点に、実際に存在している必要は必ずしもない。この点について、Fillmore (1971: 373) では「home として感じられる到達点」として言及されているので以下、検討しておきたい。

以下 (1) では、到達点に話し手や聞き手が存在しないが come が現れる事例が示されている。

(1) a. I came over to your house last night, but you weren't home.

b. Fred came to my apartment twice last week while I was gone.

c. *Sheila came over to Fred's house last night, (but he wasn't home).

— Fillmore (1971: 373) (下線部・括弧内記載筆者)

上記 (1a-c) については以下 (2) のように記述されている。

(2) …that the Goal is a ‘proper location’ for Sender at arrival time; or that the Goal is a ‘proper location’ for Addressee at arrival time.

— Fillmore (1971: 374)

上記 (1a-c) と同様の事例が、以下 (3a-c) のように bring にも存在する。

(3) a. I brought some flowers over to your house last night, but you weren't home.

b. Fred brought some flowers to my apartment twice last week while I was gone.

c. *Sheila brought some flowers over to Fred's house last night, (but he wasn't home).

上記(3a)では、話し手が聞き手の自宅に移動したが、その到達点に聞き手が存在していなかった、という事象が表示されている。注意すべき点は到達点に聞き手が存在していないのにもかかわらず bring が用いられていることである。(3b) では、第三者が話し手の住所に移動した時に、話し手はそこに存在していなかった、という事象が表示されているが、bring が用いられている。(3c) については、或る第三者が別の第三者の自宅に移動したが、そこに相手は存在していなかった、という事象であるが、(3a-b) と異なり bring は用いられない。以上のことから、到達点で話し手や聞き手の存在が見込まれる場所である場合には、そこに話し手や聞き手が存在していなくても bring が用いられることになる。

2 「こちら」は話し手が存在する場所、「そちら」は聞き手が存在する場所、「あちら」は話し手や聞き手が存在する以外の場所をそれぞれ示す。また、被移動物は(人・動物)以外の無生物でもよい。

参考文献

- Blackmore R. D. (2000) *Lorna Doone*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Fillmore, C. J. (1971) “How to Know Whether You’re Coming or Going.” In Hyldgaard-Jensen, K. (ed.) *Linguistik*. Frankfurt: Athenaum, 369-379.
- Hornby, A.S. (ed.) (1995) *Oxford Advanced Learner's Dictionary*. (= OALD) London: Oxford University Press.
- Kasajima, J. (et al.) (笠島準一他) (2008) *New Horizon English Course 2*. 東京: 東京書籍.
- Kasajima, J. (ed.) (笠島準一監修) (2015) 『ニューホライズン英和・和英辞典』第七版 東京: 東京書籍.
- Konishi, T. et al. (eds.) (小西友七他編) (1993) 『ランダムハウス英和大辞典』第二版 東京: 小学館.
- Konishi, T. et al. (eds.) (小西友七他編) (2001) 『ジーニアス英和大辞典』東京: 大修館書店.
- McCaleb, J. and T. McCaleb (eds.) (マケーレブ・ジャン、マケーレブ恒子編) (2006) 『動詞を使いこなすための英和活用辞典』東京: 朝日出版社.

Morizumi, M. (et al.) (森住衛他) (2006) *New Crown English Series 2,3*. 東京: 三省堂.

Terasawa, Y. (ed.) (寺澤芳雄編) (1999) 『英語語源辞典』(縮約版) 東京: 研究社.

(映画)

Appaloosa (邦題: 『アパルーサの決闘』) (2008, 米, New Line Production, Inc.)

Getaway (邦題: 『ゲッタウェイ』) (1972, 米, Warner Bros. Entertainment, Inc.)

岡 良和 人間環境学部教授 (英語コミュニケーション論)